



濱 諱弘

能勢学校新構想について

問 父母は2人、祖父母は4人、8人、16人、七代前で128人の先祖がいます。教育というものは、そこまで踏み込むべきと思いますか？

答 生命は永遠につながっているという話などは取り組んでいます。

問 望ましい教育環境の適正な人数は何人くらいですか？

答 学校の適正規模は一概に何人といえるものではありません。

問 100名以上の岐尼小や200名以上の久佐々小を廃校にする理由は何ですか？

答 岐尼小は既に各学年1クラス。久佐々小も1年生と2年生が学年1クラスになっていきます。できれば2クラス3クラスあってクラスがえがでできるのがいいと思います。

問 そうしますと、新しい学校が小規模校になった場合は、望ましい教育環境にないのですか？

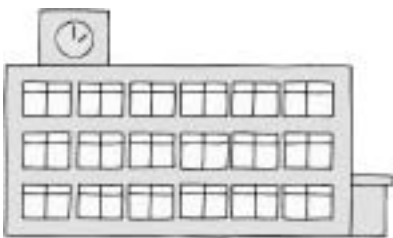
答 能勢町に子供が5人しかいなくなると、池田も豊中も川西もないことになった時に、大阪市内に統合するという話にはならないと思います。

問 万が一、府民牧場の跡地案が駄目になった場合に1億1千万円をどうぶに捨てる信念はありますか？

答 生きた予算執行にしていきたいと考えております。

問 地域も子育てをしていますよね？

答 学校がなくなると欲しいという人は誰もいないと思います。耐震や子供の数を見て、より望ましいものに整えるということから方向性を示しているわけです。



問 脳は楽をしたがりです。少人数だと先生に必ず当てられます。合唱もタイコも全員参加ですから、脳は常に活性化して、とても優秀な子供が育つと思いますか、どう思いますか？

答 脳が活性化するのは少人数でないとだめなんだということでもないと、思っておりまして、演奏などは豊かな響きというのは人数がないとできないんです。

問 逆説的に言えばこれまでの公共は、行政主導で住民を上から見て、押しつけていたということではないか。

答 その通りだ。

問 新しい公共とは。官だけでなく住民やNPO、企業などが積極的に公共的なサービスの主体となり、身近な分野において公助、共助で精神で活動するものと解している。



八木 修

「新しい公共」と学校再編について

問 ならば学校再編の問題は、住民と協働して積み上がったものか疑問だ。私は対案としてこれまで何度も示してきたが、各地域（校区）で十分な話し合いの時間が必要だといってきた。それが新しい公共の精神で住民と行政の協働の作業ではないか。

答 学校再編の構想を示し住民の理解を得るため話し合いをしてきた。最後は議会で判断を。

問 府民牧場の譲渡が確定するにはまだ1年ある。地域（校区）で話し合いをする時間はあるはずだ。

答 話し合いをせよと言うが、住民のみなさんは責任の問題になると逃れる風潮が能勢にはある。だから私が責任を持って進めている。

問 ならば学校再編の問題は、住民と協働して積み上がったものか疑問だ。私は対案としてこれまで何度も示してきたが、各地域（校区）で十分な話し合いの時間が必要だといってきた。それが新しい公共の精神で住民と行政の協働の作業ではないか。

答 現状の人数が維持できても学校再編をするか。（教育長）今後減少するという予測の中での話で学校再編を考えた。減らないのなら再編は考えなかった。

問 学校再編構想の是非を問う住民投票条例制定の動きもある。このままでは対立を生むだけだ。まちづくりを含め話し合う時間を作るべきだ。

答 好きこのんで学校再編をしているわけではない。必要性のもとに進めている。どない言われても進めていく。

問 町長は町政運営方針で、ふるさと能勢に愛着と誇りを持ち、人と人とながつながり大切にすることを大切にするように進めるか議論を積み上げ、一人ひとりの住民が幸せに暮らせる能勢を作りた。そのためにはあらゆる機会を通じて輿論となる意見を出して欲しいということですね。

問 新しい公共、住民との協働というなら、一年間話し合う時間を作って